

佐世保鎮守府倉庫跡遺跡（立神広場）発掘調査現場説明会資料

令和 4 年 2 月 4 日（金）佐世保市教育委員会

1. 発掘調査に至る経緯

現在佐世保市では立神音楽室を含む立神広場を佐世保鎮守府の歴史や日本遺産「鎮守府」のストーリーを紹介する「させば立神近代化歴史公園」として整備する構想を進めています。今回の発掘調査は歴史公園の施設が整備される予定地に建物跡などが埋蔵されていないかどうかを確認するとともに、発掘調査で確認された遺構を公園整備に活用することを目的に令和 3 年 12 月 21 日から令和 4 年 2 月 4 日までの予定で実施したものです。



させば立神近代化歴史公園の完成予想図

2. させば立神近代化歴史公園について

立神広場は国有財産であるため、佐世保市では旧軍港市転換法（軍転法）に基づき無償譲与を受けて公園整備を行います。整備では遺構を活かした展示を計画しており、現在残されている煉瓦倉庫を展示、休憩施設として改修し、さらに海側には日本遺産「鎮守府」を紹介するガイダンス施設を新たに建てる計画です。そして広場内の遺構を一巡りする散策路や広場の隅にはかつてあった土堤とほぼ同じ高さの築山を設け、かつての歩哨と同じ視点から広場内や周辺の建物を眺めることができるよう計画しており、令和 7 年度のオープンを目指して計画を進めています。

3. 調査区配置と検出された遺構



立神広場全景

●第1調査区

明治21年(1888)11月に2棟同時に完成した弾薬包庫のうちの1棟。完成時は2棟を合わせて弾薬包庫と呼び、取得価格は2棟合わせて7,842円71銭5厘(米60kgの値段換算で約7,000万円)でした。弾薬包とは弾丸と薬莢が組み合わさった弾薬のことで、明治33年

(1900)には爆発事故に備えて被害極限のための土堤が周囲に構築されました。

この建物は平成7年(1995)まで存在していましたが、シロアリ被害のために解体されてしまいました。基礎には石材(おそらく針尾石)を三段(約90cm)積んでいましたが解体の際に最上段の石材も撤去されたため2段分が残されています。建物周囲に設けられた排水溝も含めて良好に保存されていることが確認されました。この建物基礎は公園整備の中で露出展示を計画しています。



●第2調査区

明治22年(1889)2月に完成した爆発管庫の跡です。爆発管とは砲弾を起爆させる信管のことと考えられます。終戦時の図面には記載されていましたが、今回の調査で初めて詳細な遺構が確認されました。弾薬包庫と同じく基礎は石造りで、壁は煉瓦造の建物でした。使用



されている煉瓦には針尾の江上大島の煉瓦工場で焼かれたことを示す「一」の刻印がなされています。道路側には造兵第一倉庫(昭和19年まで存在)の基礎が見えていますが、この建物は爆発管庫周辺にあった排水溝を埋め立てて建てられたこともわかりました。埋め立てにより爆発管庫の床下換気口が埋まってしまうことを防ぐため、煉瓦で壁が造られていることもわかりました。立神広場の具体的な造成過程がわかる重要な発見といえます。

●第3調査区

建物や水に関する遺構であることは間違いありませんが、史料が残されていないため、建物の名前や用途、いつ造られたのかは全く分かりません。少なくとも明治23年から33年までの間にこの場所に建物が建てられた記録はありません。また明治33年(1900)にはこの場



所には爆発管庫の土堤が築かれていました。この土堤は大正4年(1915)ごろまで存在していましたので、それ以降の建物の跡と考えられます。

●第4調査区

大正11年(1922)に建設された廃棄艦処分品第一仮格納庫の跡です。大正10年(1921)11月から翌11年2月まで開催されたワシントン海軍軍縮会議により主要国の海軍では主力艦の廃棄や新建造の停止が決められました。日本海軍でも多くの主力艦を解体、あるいは撃沈処分する必要があり、それらの艦艇から取り外した再利用可能な部品を保管するための倉庫が大量に必要になりました。そのため海軍では各海軍工廠に1,000坪を目安に倉庫の急設を命じ、佐世保鎮守府では8棟約1,500坪の倉庫が建てられました。そのうちの第1

号倉庫がこの場所に建てられました。構造は木造平屋建て、鉄板葺きの建物で、203 坪の規模がありました。床面が重量物を載せるためコンクリート造となっています。もともと仮設建物だったので、あまり丁寧な造りではありません。

また調査区の道路側からは終戦時の図面で確認できる運搬車両用上屋の基礎と考えられる構造物も検出されています。



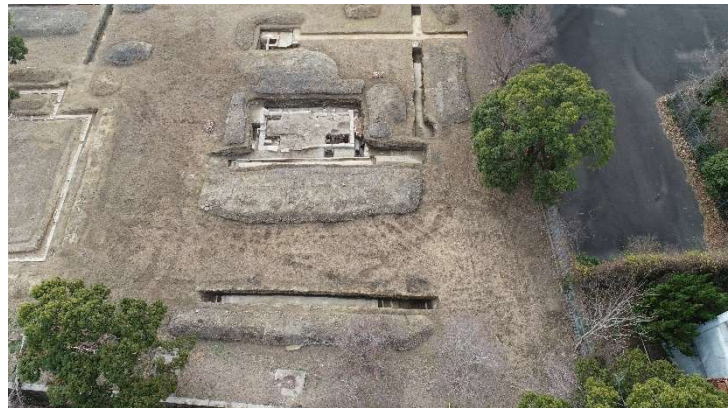
●第5 調査区

広場の北東隅には公園に入るための進入路を造る予定となっています。この部分の調査では砂岩で造られた排水溝が確認されました。終戦時の史料では仮設建物が建てられていた記録があるため、それらに関する遺構の可能性があり



●第6 調査区

爆発管庫の跡を探すために第2 調査区を掘削したところ、爆発管庫の北側から建物に沿って排水溝とコンクリート造の建物基礎が検出されました。排水溝には現代でもおなじみの落とし蓋式側溝が用いられているなど、かなり新しい建物と考えられました。史料を確認し



たところ、昭和 19 年（1944）の佐世保海軍工廠の全体図に「造兵第一倉庫」と記載されていました。建物は北側に向かって伸びていると考えられたため、早速第6 調査区を設け、確認調査を行いました。当時の佐世保海軍工廠は造船部、造機部、造兵部などに分かれていたためそのうちの造兵部が使っていた倉庫と考えられます。ただし、終戦時の史料からは消去されているので、昭和 19 年から 20 年にかけて解体撤去されたものと考えられます。

なお調査区の西側の端からは大型の砂岩製排水溝が検出されています。これは爆発管庫の西側にあった土堤に伴う排水溝と考えられます。

4. まとめ

今回の発掘調査では発見されることが予想されていた 2 棟の建物のほかに 3 棟の建物跡のほかいくつもの遺構が新たに確認されました。これらの遺構は立神広場全体に分布していることが確認されました。またこれまでよくわかっていなかった明治 20 年代から現在に至るまでの立神広場の変遷を具体的に追うことのできる造成の痕跡も初めて確認されました。特に広場全体に旧海軍が建設した建物跡などの遺構が分布しており、その保存状態が極めて良好であることも確認されました。今回の発掘調査により立神広場に歴史公園を整備することが極めて意義深いことであることが改めて確認されたといえます。

